

いずも

つながる
ひろがる
ささえあう

vol. 161 | 11月・12月号 | 令和7年12月19日発行 |

社会福祉法人
出雲市社会福祉協議会



TOPIC! 《p2》特集 大人が変われば、社会が変わる。 子どもは子どものままでいい

出雲市不登校親の会 ユナイトIZUMO 岡垣 純子さん

《p4》まず知ることから! 「ふくし」の学び

《p6》お知らせ・募集

- ・たすけあい活動勉強会
- ・「出雲の日」関連事業 第45回出雲市民余芸大会
- ・歳末たすけあい運動

《p7》ご寄附ありがとうございます

《p8》子どもの遊び場に対する助成

いずりんレポート

- ・難聴者サークル発「耳マーク付きカード」誕生
- ・高校JRC部員集結! あいサポーター研修
- ・社協のPR活動でヒーローも福祉体験!

ふくしの支え手企業 vol.3株式会社カイハツ

大人が変われば、社会が変わる。 子どもは子どものままでいい

つながりを力に

「ユナイト」は「つながり」のこと。

「つながりはきつと社会を照らす光になる!」、そう信じて歩み続ける、不登校の子をもつお母さんが集まった「ユナイトIZUMO」。現在は8人で活動し、全員が当事者です。教育への考え方や子どもとの関わり方が移り行く社会のなかで、「今」の情報や気持ちの共有を大切に活動。お母ちゃん同士のすったもんだの日々をシェアし、泣いたり笑ったり。今まさに悩んでいる人同士がつながり、「ひとりじゃない」をパワーに変えておられます。

「戦い」から「対話」へ

ユナイトIZUMO結成までは、夫婦で営むカフェで子育てや不登校に関するワークショップなどを企画。そのなかで、不登校の子どもと保護者を支援する「しまねスクールノマドコミュニティ」との出会いがあり、刺激になったそうです。「社会が変われば不登校と言われる子はいなくなると思っています。でも、すぐには変わらない。社会を変えるためにできることをしようと活動を続けていました」と話します。

しかし、声をあげても一人だと話を聞いてもらえない難しさを痛感した岡垣さん。それでも立ち止まらず、まず自分の知識を深めようと社会教育士の勉強をスタート。「学びを通して、向き合い方が大きく変わりました。以前は、学校や行政に対して、分かってくれない」と戦う気持ちが強くて。ゼミに元学校長や行政職の人が多かったんですが、『なん

出雲市不登校親の会 ユナイトIZUMO
おか がき じゅん こ
岡垣 純子 さん

ユナイトIZUMO SNS

Instagram /



LINE /



でそんなに社会に否定的なの?」って言われるくらい。(笑) 拳を出すんじゃないくて、大切なのは「対話」だと気づきました」と当時を振り返ります。「まず変わるべきは他人や社会ではなく自分だと、視点が外から内へと変化しました」と自身のターニングポイントに。

さらに、財産となる今のメンバーと出会い、「向かう方向が一緒なら、つながって発信すれば伝わる!」と確信。当事者同士のつながりに光を見出し、ユナイトIZUMOを結成した岡垣さん。これが新たな一歩となりました。

認識のズレを埋める「当たり前」の発信

経験や想いを伝え、悩むお母さんを一人でも救いたいと活動する岡垣さんですが、もともとは子どもの不登校を公表するのに抵抗があったそうです。「自分が変わろう」と決意してから、知ってもらう機会をつくろうとPTAなどに積極的に携わるように。知り合いが増え、そこから輪が広がったと話します。

また活動のなかで、当事者の状況は発信しないと伝わらないと実感。不登校についての報道は教育的視点が多く、世間との認識にズレがあり、なにも知らない、これが事実と受け取られることに危機感を覚えたと言います。「実際に起きていることを話すと、『そうなんだ!』と反応してもらえることが多くて。私たちにとっては常識でも、世間にとっては新しい。私たちの当たり前を伝えていいんだ!と前向きになれました」と話し、発信する価値を再認識。現在制作中のテレビ番組(※)にも出演予定で、多くの世代に声を届け、価値観のすれ違いを変えるきっかけにしたいと期待します。



子どもはそのまま、大人が変わる

子どもたちの置かれている環境について、「小学校に入ると、ありのままでも過すことが良しとされてきた世界から、多数派に合わせる世界に一変しますよね。そのなかで苦しむ子は確実にいて、でも、その少数派への支援は難しくて」と話します。また自身の経験から、「子どもたちは自分に起きていることの言語化が難しいだけで、考えがないわけじゃないんです。学校に行けないことも親に申し訳ないと思って、でもどうしていいかわからない」と代弁します。

「もちろん親も戸惑います。なにが起きているんだろうって。私自身、子どもの言葉に耳を傾ける余裕がなくて、なんとか学校に行かせようとがんばる母親を演じていたように思います」と振り返ります。そしてある時、「なんでぼくたちの気持ちを分かってくれないの」という言葉と表情にはっとさせられた岡垣さん。しばらく休んでエネルギー補充期間をとる選択をします。「今は好きなことに夢中になったり、時には学校へ行ったりとマイペースに過ごしています。みなさんに伝えたいのは、子どもはそのままでもいい」ということ。

一人ひとりの生きる力を信じて、大人が意識を変えることで子どもが悩まないし、不安にならないと思います」と話します。

家庭では、子どもたちの特性と感覚を「対話」を重ねて受け入れ、価値観の押し付けはしないこと、そのうえで親の思いも伝えながら言葉で共有し、すり合わせていくことを大切に行っているそうです。また、夫婦間でも、「私



を信用して見守ってくれています。子どもの様子は共有して、父だからできる関わりを担ってもらっています」と、「対話」がキーワードになっています。

「知っていること」が安心に

不登校の原因の一つに発達特性があるとし、「発達障がいと診断がつくだけで安心しました。福祉サービスも多くて選択肢も広いので。そうでない場合、子どもの状況に『じゃあなんで?』と混乱するうえに支援もなし。疑問と不安を抱えながら親だけで支えて、追い込まれて」と苦しい現実を吐露。当事者になって初めて分かることが多く、そうなる前から知っていることで心の持ちようが変わると自身の経験を語ります。例えば、子どもの育ちの知識は、事実と感情を切り離すツールになったそうです。また相談先について、行政機関や専門家以外に、当事者同士がつながる場があると知っていることが安心につながるのではと話します。「合うかどうかは行ってみないとわからないし、行くかどうかは親の気持ち次第。3年前の自分はオープンにするのが嫌だったけど、自分の話をするのが第一歩でした。それを越えて今があるんです」と、いざという時の備えとマインドについて力強い言葉で伝えます。

実際に、当事者同士で話をして気持ちを整えているそうで、「二進一退する毎日。仲間の存在でふんばりがきいています。自分と子どもの関係だけだとしんどい時もあるので、現役不登校のお母さんのお話し会があるよって知ってほしいですね」と話します。また、「足を運ぶことに抵抗があるという人は公式LINEにそっとメッセージを送ってみてくださいね。同じ立場で分かり合えることがたくさんあるので、一人で抱えないでほしいです」と切に願います。

社会を変える大きな波に!

これからの活動について、「市内では不登校の子や親を支える活動が広がっていて、強みだと感じています。さらに言えば、誰がいつ行ってもいいフリースペースがあるといいなって。例えば、神奈川県川崎市条例に基づいた『川崎市子ども夢パーク』は、

子どもたちがありのままに自由に遊び、学ぶ場所になっっています。施設のドキュメンタリー映画のフレーズに『何をしてもいい。何もなくてもいい。きみは、きみのままでいい。』とあって、これに尽きる

なって。『原因は子どもにある、だから変えよう』ではなく、変わるのは大人であり社会。教育や地域など色々な場面で伝え続けたいです」と言葉に力があります。

「不登校は子どもと環境に起こるミスマッチからの現象。今は、学校に行っていない、ただそれだけなんです。不登校で悩む子どもやお母さんをゼロにしたい。子どもたちの笑顔が溢れる社会へと変われることを願って進み続けます!」と揺るぎない想いを言葉にする岡垣さん。子どもは子どもそのまま、大人が変わる。これを理想ではなく体現する姿に感化され、大きな輪が広がっています。つながりを光に、お母ちゃんのチャレンジは続きます!

※「地域でささえる子どもたちの未来」学校に行かない、行けない子どもたちが教えられること(仮題)

You Tube等で配信、放送予定

予告編をチェック!



出雲市社協では、学校に行きづらい子やその保護者のための居場所をまとめた「出雲のサイドプレイスMAP」を随時更新しています!



「ふくし」の学び／

や企業、地域などで
える福祉教育を行っています。
いの当事者の方や介護の現場で
「ふくしって？」ということや
の魅力などをお伝えしています。
わせづくり の学びを通し、
くりをすすめています！

島根県東部高等技術校

授業に社会福祉を取り入れている美容科1年生とアイマスク体験と車いす体験、高齢者疑似体験を行いました。気づきを日々の生活や未来の職場でどう活かせるか考え、実践につなげる学びとなりました。



第二中学校

「ふくしって？」や介護の魅力を伝える「介護の基礎的講座」。福祉施設職員が講師になり、高齢者疑似体験を行いました。老いによる心身の変化と必要なサポートを知り、自分にできることを一緒に考えました。



よくあるお問合せ

めたい！／

Q. 交流会や研修会の企画を考えているのですが...

A. 「これって社協に聞いていいのかな？」ということでもお気軽にお問合せください。出雲市社協では対応できないことでも、地域の団体などにおつなぎすることもできます。

Q. ユニバーサルスポーツをしてみたいのですが...

A. 出雲市社協では、ボッチャやモルックなどをはじめ、さまざまなレクリエーション用品を貸し出しています。ぜひご活用ください！
※本所、支所によって貸出物品がさまざまです。ホームページからご確認ください。



問合せ先 地域福祉課 ☎23-3781



／ まず知ることから！

島根中央信用金庫

新入社員研修で、障がいを知る「あいサポート研修」を行いました。

受講後、島根県のあいサポート企業に認定！誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに一緒に取り組む心強い存在です。



塩冶小学校

3年生の福祉学習で視覚障がい者の佐藤さんと交流。暮らしのリアルを知り、生活のお助けアイテムに興味津々！障がいがあっても自分らしく生きる姿にふれ、心のバリアフリーを育みました。



出雲市社協は地域の「なにかしたい！」にこたえます！

／ 福祉を学びたい！ ／

「さまざまな障がいについて知りたい」、「高齢者や介護のことを学びたい」、「車いすや点字を体験したい」といった思いをうかがい、講師として出向きます。必要に応じて、当事者や福祉施設、ボランティア団体などとマッチングします。



点訳ボランティア▶
出雲市アイアイ会の点字講座

／ 地域福祉の活動を体験したい！ はじ

福祉の学びから一步を踏み出し、もっと深めるお手伝いをしています。「子ども食堂でボランティアをしたい」、「フードドライブをしたい」といった思いと地域をつなぎます。



言語的・文化的に▶
多様な子どもたちの居場所
「わくわく子どもクラブ」



たすけあい活動勉強会

困ったときはお互いさま。ちょっとした生活の困りごとを手助けする、たすけあい活動を始めるにあたっての基礎を学びます。

■ 日 時：令和8年2月16日(月)
13:30~16:00

■ 場 所：出雲市社会福祉センター

■ 参加費：無料

■ 対象者：たすけあい活動に関心のある方

■ 定 員：30名(先着順)

■ 内 容：たすけあい活動についてのお話、団体紹介など。

※詳しくはホームページをご覧ください。

■ 申込方法：2月6日(金)までに ①氏名 ②電話番号 ③参加動機 をご連絡いただくか、右記二次元コードからお申し込みください。



問合せ・申込先

地域福祉課 ☎23-3781 FAX 20-7733

✉ csw@izumoshakyo.jp

※メールでの問合せ・申込の際は、件名を「たすけあい活動勉強会」としてください。

「出雲の日」関連事業 第45回出雲市民余芸大会

■ 日 時：令和8年1月25日(日)

開場 11:30 開演 12:30

■ 会 場：出雲市民会館大ホール

■ 入場料：〈前売券〉1,500円 〈当日券〉1,700円
(全席自由)

■ 販売窓口：出雲市社会福祉協議会本所・各支所、山陰中央新報社出雲総局、出雲市役所福祉推進課・各行政センター福祉担当課

◎収益の一部は赤い羽根共同募金に寄附されます。

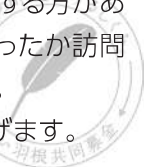
問合せ先 総務課企画係 ☎23-3781

歳末たすけあい運動

歳末たすけあい運動は、赤い羽根共同募金運動のひとつとして毎年12月に実施されています。

皆さまから寄せられた募金は、出雲市内の高齢者や障がい者、子どもたちなど支援を必要とする方があたたかいお正月を迎えられるように、あったか訪問や食料支援等の事業に活用されています。

みなさまのご理解とご協力に感謝申し上げます。



お詫びと訂正

10月20日に発行いたしました広報紙「社協だよりいずも」第160号に掲載の、「令和7年度しまね県民福祉大会における表彰及び感謝」の記事中、被表彰者名簿の一部に誤りがございました。関係者の皆様、および読者の皆様に深くお詫び申しあげ、訂正したものを下記のとおり改めて掲載させていただきます。

島根県知事感謝

民生児童委員功労

氏 名

高見 睦哉

功 績 概 要

今市地区民生委員児童委員協議会会長

ボランティア功労

団 体 名

ブックランド古志

島根県社会福祉協議会会長表彰

民生委員・児童委員功労

氏 名

有藤 敏雄

岡 文雄

亀山 一敏

石飛 博雄

小村 明美

落合 邦雄

原 みゆき

原 正

中間 敦司

功 績 概 要

大津地区民生委員児童委員協議会会長
高浜地区民生委員児童委員協議会会長
川跡地区民生委員児童委員協議会会長
長浜地区民生委員児童委員協議会会長
平田地区民生委員児童委員協議会会長
檜山地区民生委員児童委員協議会会長
湖陵地区民生委員児童委員協議会会長
庄原地区民生委員児童委員協議会会長
出東地区民生委員児童委員協議会副会長

社会福祉施設・社会福祉協議会・団体等役職員功労

氏 名

大塚 昌雄

功 績 概 要

社会福祉法人出雲乳児福祉会監事

優良社会福祉施設・社会福祉協議会・団体功労

氏 名

不登校親の会

団 体 名

実樹の会

永年勤続功労

氏 名

水 陽子

須佐 公和

今井 真由美

功 績 概 要

多伎地区主任児童委員
大社地区主任児童委員
社会福祉法人ひらた福祉会職員



ご寄附 ありがとうございます

令和7年9月11日 ～ 令和7年11月10日受付分（敬称略）

*出雲市社会福祉協議会ではご寄附いただいた方のご意志を尊重し、氏名等を掲載しています。なお、金額は掲載しませんのでご了承ください。

一般寄付

<出雲>

武志町 清水 典子

今市町 小村 君恵

塩冶町 大塚 昌雄

<団体>

大社町母子寡婦福祉会

香典・玉串料・お花料返し

() 内は故人

<出雲>

今市町 原田 君江 (哲夫)

今市町 小山 好明 (裕子)

今市町 松浦 利幸 (修身)

今市町 加藤 雅子 (博康)

今市町 奥野 和子 (弘和)

大津町 仲西 まゆみ (晃司)

大津朝倉 杉原 眞郎 (篤)

上塩冶町 宮本 智子 (宏)

天神町 高橋 宏忠 (宇畑 友夫)

白枝町 渡部 春樹 (チエ子)

松寄下町 森山 尚己 (豊治)

浜 町 田口 敏男 (利香)

渡橋町 片寄 靖久 (勤)

渡橋町 柳樂 伸史 (朋行)

野尻町 玉木 広子 (剛)

下古志町 石川 昌義 (寿樹)

荒茅町 前島 博之 (智代江)

<平田>

平田町 湯浅 幸子 (江角 ヤエ子)

平田町 原田 克彦 (登)

平田町 湯浅 誠一 (佳夫)

平田町 常松 和正 (紀代子)

平田町 常松 和正 (清治)

平田町 浅野 昌之 (邦市)

平田町 坂田 智洋 (忠夫)

平田町 山口 正美 (竹子)

灘分町 小村 久仁雄 (春江)

西代町 原 幸正 (英喜)

万田町 錦織 信吾 (久子)

万田町 安食 竹峰 (隆)

奥宇賀町 宇賀 俊通 (金子)

奥宇賀町 森山 悦郎 (シズ子)

奥宇賀町 川瀬 きよ (勇)

河下町 高橋 美津子 (定義)

河下町 高橋 幸則 (敦子)

河下町 錦織 澄子 (サダ子)

唐川町 荒木 万寿雄 (俊秋)

東郷町 西尾 徹 (光夫)

久多見町 西尾 翼 (邦夫)

久多見町 土江 清司 (絹子)

野石谷町 原 敬子 (寿男)

上岡田町 西尾 豊守 (彦宣)

岡田町 大塚 とも子 (敏則)

園 町 田中 広幸 (美智子)

園 町 橋本 克吉 (皆子)

鹿園寺町 伊藤 彰人 (正子)

十六島町 錦織 美智子 (義夫)

美保町 山根 一彦 (貞子)

三津町 福田 純基 (啓幸)

三津町 福田 美代子 (昇)

野郷町 石倉 勇樹 (郁夫)

<佐田>

一窪田 田中 定子 (重男)

毛 津 田中 知志 (トシエ)

<多伎>

小 田 花田 勝久 (勝利)

久 村 森山 正康 (千代)

<湖陵>

常楽寺 三原 和男 (定子)

大 池 長谷川 司 (潤二)

板 津 桑原 義和 (景子)

<大社>

遙 堪 松井 幹雄 (満子)

入 南 古川 裕史 (雪子)

中荒木 山川 修司 (多鶴子)

中荒木 青木 佳夫 (一枝)

北荒木 佐知 正義 (由紀子)

北荒木 岡元 健 (義人)

北荒木 安田 久美子 (昌幸)

修理免 金守 京 (辰巳)

修理免 金守 京 (和榮)

杵築南 安藤 てるみ (元春)

杵築西 嘉藤 真実 (繁野)

杵築西 神田 三子 (榮次)

杵築北 今岡 克己 (愛子)

杵築北 濱崎 宏幸 (タミコ)

日御碕 齋藤 海輝 (彰)

宇 龍 濱崎 照夫 (フデ子)

<斐川>

学 頭 原 昇 (秀男)

荘 原 古川 善正 (末子)

荘 原 陶山 研治 (邦子)

神 庭 岡 芳伴 (久枝)

上庄原 勝部 良子 (茂)

上庄原 陰山 隆夫 (豊)

出 西 伊藤 千寿 (晴子)

神 氷 陰山 正和 (アキエ)

求 院 矢野 政子 (文一)

上直江 小豆澤 康枝 (孝光)

直 江 遠藤 邦博 (信雄)

直 江 原 紀宜 (勝義)

直 江 伊藤 健 (喜代子)

三分市 飯塚 政登 (幸雄)

坂 田 榎野 純弥 (孝二)

匿名

6件

皆さまからのご寄附は、市内で福祉活動を行う団体及び
各地区社会福祉協議会への助成などに使わせていただいております。

- 出雲市社会福祉協議会に対する寄附は、住民税と所得税の控除対象になります。また、寄附者が法人の場合には、損金算入の制度が利用できます。

【例】出雲市にお住まいの方が本会へ50,000円の寄附をされた場合

※税額控除を選択した場合

〔1〕所得税 (50,000円－2,000円) × 40% = 19,200円

〔2〕住民税 (50,000円－2,000円) × 10% = 4,800円

〔1〕 + 〔2〕 = 24,000円 …… 税額控除額となります。

※一例であり、個々のケースにより控除額は変わります。詳しくは税務署等へお問い合わせください。

- 「地区の社会福祉協議会へ寄附をしたが、市の社協だよりに掲載されていない」とのお問い合わせにつきまして、本会と各地区の社会福祉協議会は地域福祉の推進におけるパートナーであり連携して事業を行っておりますが、別の団体であることから、各地区社会福祉協議会に対する寄附はこの紙面に掲載しておりません。ご了承ください。





子どもの遊び場に対する助成



子どもが安心して遊べる環境づくりのため、遊具（健康遊具を含む）などの新設や補修にかかる費用の一部を地区社会福祉協議会へ助成します。（皆様からご協力いただいた会費、寄附金、赤い羽根共同募金を活用しています。）

助成金額

遊び場の新設または補修
1 地区上限16万円
(8割助成)

下記のいずれかに該当する場合は助成対象となりません。

- 行政機関、営利を目的とする団体、個人が設置あるいは管理する遊園地（町内などで管理している遊園地が対象です）
- 固定式でない遊具または設備
- 同一の助成申請内容で複数年にわたるもの

申込方法 令和8年1月15日(木) までに、お住まいの地域の地区社会福祉協議会にご連絡ください。



社協のPR活動で ヒーローも福祉体験！

平田青年会議所のイベントでPRブースを出展。赤い羽根共同募金クイズラリーや高齢者疑似体験などを行い、ご当地ヒーロー「ベックマン」も挑戦しました。来場者に本会の活動と福祉を身近に感じていただく機会となりました。



高校JRC部員集結！ あいサポーター研修

県内5校から集まった部員と障がいを知る講義・体験を行い、日常生活でできるサポートなどを学びました。青少年赤十字は「気づき・考え・行動する」がモットー。エネルギー溢れる高校生地域の地域活動に期待大です！



難聴者サークル発 「耳マーク付きカード」誕生

聴覚に障がいのある人が必要なサポートを相手に伝えるお助けアイテム「耳マーク付きカード」。難聴者・中途失聴者の集いサークル・ベーターベンが制作し、コミュニティセンター等で配布予定。聴覚障がいへの理解促進の役割にも期待です！

レ
ポ
ー
ト



▲令和7年度



▲令和5年度

当社は、子どもたちや地域の皆さまを支える活動の一環として、子ども食堂への支援を継続しています。毎年、運営団体に寄付金をお渡しし、食材購入や運営費にご活用いただいております。子ども食堂は食事提供だけでなく、子どもたちの居場所づくりや地域のつながりを育む場です。寄付という形で今後も継続して支援し、子どもたちや地域の皆様の笑顔と安心に貢献してまいります。また、こうした取り組みを通じて、地元への愛着を深め、地域とともに歩む企業であり続けたいと考えています。

企業の声

市内の子ども食堂へ継続して寄附され、物価高騰の影響を受けながらも地域の居場所づくりに尽力する団体のみなさんを資金面からサポート。食を通じて育まれる人と人のつながりを応援する、縁の下での力持ちです！

Vol.3

株式会社カイハツ

ふだんのくらしをしあわせにする
地元企業をご紹介します！

ふくしの支え手企業



出雲市社会福祉協議会連絡先

〈窓口対応〉平日8:30～17:15

☎23-3781(代表) FAX20-7733(代表)

✉ fukushi@izumoshakyo.jp

ホームページ <https://www.izumoshakyo.jp/>

総務課・地域福祉課／☎23-3781 FAX20-7733

生活支援課／☎23-3790 FAX20-7733

いずも権利擁護センター／☎25-0955 FAX20-7733

平田支所／☎63-4624 FAX63-5011

佐田支所／☎84-0131 FAX84-9034

多伎支所／☎86-2331 FAX86-2351

湖陵支所／☎43-2310 FAX43-2226

大社支所／☎53-3196 FAX53-6053

斐川支所／☎73-9330 FAX72-4068



高齢者あんしん支援センター

出雲／☎25-0707 FAX25-0901

平田／☎63-8200 FAX63-5011

佐田／☎84-0019 FAX84-9034

多伎／☎86-7122 FAX86-2351

湖陵／☎43-7611 FAX43-2226

大社／☎53-3232 FAX53-6053

斐川／☎73-9125 FAX72-4068

